
令和4年度 事業計画書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)



学校法人 日本医科大学

目次

	頁
I 法人	1
II 大学	1
1 日本医科大学	1
2 日本医科大学先端医学研究所	2
3 日本獣医生命科学大学	3
III 専門学校	4
日本医科大学看護専門学校	4
IV 病院・クリニック等	4
1 日本医科大学付属病院	4
2 日本医科大学武蔵小杉病院	5
3 日本医科大学多摩永山病院	6
4 日本医科大学千葉北総病院	6
5 日本医科大学腎クリニック	7
6 日本医科大学呼吸ケアクリニック	7
7 日本医科大学健診医療センター	7
8 ワクチン療法研究施設	8
9 日本医科大学成田国際空港クリニック	8
V 各センター	8
1 国際交流センター	8
2 知的財産推進センター	9
3 ICT推進センター	9
4 研究統括センター	9
5 しあわせキャリア支援センター	10
VI 法人本部(管理部門)	10

I. 法人

(1) 新規教育施設（看護学科）の設置計画

令和6年度末の設置認可申請に向けて関係部署と連携し、認可申請書類作成の準備、教員の確保、カリキュラム案の作成、関係規程の整備を行う。

(2) 日本獣医生命科学大学富士アニマルファームの再開発

施設設備の段階的な更新の他、富士セミナーハウス個室化改修工事の完了、セミナーハウス増築工事の着工を図る。併せて、富士アニマルファーム隣接不動産を取得し、施設拡充に向けて整備を始める。

(3) 武蔵小杉キャンパス再開発計画

武蔵小杉B地区第2期教育施設建設に係る実施設計を完了させ、着工を図る。また、武蔵小杉C地区土地売却に向けて、旧病院解体工事を継続して進める他、道路等基盤整備関連の行政協議及び設計を行う。

(4) 多摩永山地区再開発計画

多摩市との継続した交渉を行い、多摩永山新病院の建設に係る各種条件について調査・検討を進める。

II. 大学

1 日本医科大学

機動的・戦略的な大学運営と新時代の医科大学創造を推進し、体系的で充実した教育課程を編成・実施する。社会の変化に対応した教育研究を展開するため、教育研究組織や事務組織を効果的に再編・整備する。研究支援体制の充実を図ると共に、学生生活全般にわたり、きめ細かな支援を実施し、他大学や地域社会との連携を強化する

(1) ポストコロナ時代を見据えた臨床教育のシステムの構築・充実

VRコンテンツ、e-learningコンテンツ、リモート患者面談システム等を活用した教育を推進する。救急や外科領域を中心に整備しているVRコンテンツについて、引き続き内容の充実を図る。

(2) 医学教育センターの充実・強化

国家試験対策として第6学年に行っている教育指導について、低学年の段階からのサポートも行い、国家試験合格率の向上に繋げる。

(3) 図書館機能の強化・高度化

研究情報センターとしての活動を強化するため、各大学院分野の研究業績を収集し、機関リポジトリ（IR）に格納すると共に、オープンアクセスポリシー等の規定を整備する。研究者データベース（RDB）の基本データとなる researchmap を充実させるためのサポートを行う。

(4) 千葉北総キャンパスにおける教育・研究機能の充実

大学院棟（法医学）を教育・研究拠点として拡充するため、基軸である法医解剖や死体検案業務の増加に対応できる環境を整える。共同研究施設千葉北総病院研究室の研究環境を充実させるため、更なる環境整備を行う。

(5) 新カリキュラムの構築

令和 5 年度に基礎医学間の水平的統合及び基礎臨床医学間の縦断的統合を重視した新カリキュラムを導入するため、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム及びモデルコアカリキュラムの改訂等も視野に入れ、新カリキュラム準備委員会等で検討し、推進する。

(6) 多様な入学選抜試験の実施

アドミッションポリシーを踏まえて明確な目的意識を持ち、意欲的で優れた人材を受け入れるため、令和 4 年度入試から導入した学校推薦型選抜（指定校）及び一般選抜・地域枠選抜について、引き続き円滑に実施する。

(7) 大学間連携の拡充

多用な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン及び保健医療分野における AI 研究開発加速に向けた人材養成プロジェクトの推進のみならず、早稲田大学及び東京理科大学と合同シンポジウムを開催する等、大学間連携の拡充を図る。

(8) 高大接続連携強化

高大接続連携協定校との協定に基づき、引き続き連携強化に繋がる取組みを推進する。

2 日本医科大学先端医学研究所

本学における学術的及び経済的な貢献を考慮した当研究所の将来構想を明確化し、研究成果を広く社会に還元する

(1) 研究体制の構築

日本医科大学新テクノロジー医学教育プロジェクトの取組みを基に、日本医科大学附属 4 病院の臨床部門との共同研究を実施し、臨床部門との橋渡し研究体制を構築する。

3 日本獣医生命科学大学

動物と人、都市と地方を繋ぐ大学として、人間愛と動物愛を持った生命科学人材の育成のため、教育研究の質の向上と学生満足度の高い学生支援の実行、安全安心なキャンパスの整備に向けた継続的な取組みを推進すると共に、コロナ禍における多様かつ質の高い取組みを継続する

(1) 「誰もが来てみたくなる大学」に向けたニチジュウブランドの確立と情報発信

令和4年度に受審する機関別認証評価の結果を踏まえ、改善に係る取組みを実施し、令和5年度に受審予定である獣医学教育評価に向けた準備を推進する。ホームページやイベント、生涯学習事業等の多様な手段を活用し、教育研究や大学運営等の諸活動の状況を発信する。

(2) 武蔵野から世界に向けた獣医生命科学のトップリーダーの育成

専門性を生かした就職に強い大学を目指し、ICTを活用した学修環境の整備と4学科の特色ある教育を推進する。教育課程編成方針と学修成果の可視化の取組みを継続すると共に、大学院教育・研究の高度化を推進し、国際競争力を担う人材を育成する。

(3) 世界をリードする「食・環境・生命 (One Health)」研究の実施

生命科学総合研究センターの特色ある研究分野の取組みを推進し、受託・共同研究の推進と外部資金獲得に努め、研究支援体制を整備する。

(4) アットホームな環境の整備と手厚いサポートの提供

多様化する学生の支援体制を整備し、研修やワークショップ等の学習機会を設け、手厚い学修サポートや個々の事情に応じたきめ細かな支援体制を整備し、提供を図る。

(5) 動物医療センターの動物医療体制の充実

動物医療センターの土曜診療の強化及び高額診療機器等の計画的な更新により、管理運営の強化に向けた取組みを推進する。

(6) 動物に関する多様な社会貢献活動の推進

富士アニマルファームの拡張及び4学科による利活用を促進し、地域社会連携の実施等を推進する。

(7) 「大学関係者が愛と誇りを持てる大学」に向けたキャンパスの整備

再開発計画に基づく富士セミナーハウスの増改築工事を行い、安心安全な教育研究環境の確保のため、キャンパス施設内の校舎の改修・解体及びセキュリティ工事等を推進する。

Ⅲ. 専門学校

日本医科大学看護専門学校

心身共にたくましく、主体的に学習に取り組むことができる優れた人材を受け入れる。高い実践能力を有する看護人材を育成するために、教育環境を整えると共に、教員の教育力を向上させる

(1) 教育内容の充実

学修支援システム及び教務システムを活用し、教育活動を効果的・効率的に実行する。講義収録システムやオンライン授業の導入等、ICTの積極的な利活用により学修効果及び授業満足度の向上を図る。

(2) 計画的な施設修繕

安全な学校運営を図るため、施設修繕計画に基づき施設の経年劣化に伴う校舎外壁の大規模修繕（補修工事）を行う。

(3) 日本医科大学看護教育 100 周年記念誌の制作及び広報活動

記念誌を制作し、高等学校及び関係各所へ配布する。また、本学ホームページ上でも公開し、日本医科大学の看護教育について紹介すると共に、発信力の強化を図る。

Ⅳ. 病院・クリニック等

1 日本医科大学付属病院

付属病院新病院 3 期工事完了後の経営基盤強化の基礎体制を確立する

(1) 効率的な病床運用

効率性・安全性の向上を図り、1年に1回各診療科の稼働状況を評価し、適切な病床管理を行う。診療科別の稼働状況を評価し、病床利用率の一定基準に対する定数の見直しを図る（稼働率から考えた効果的配分）。退院日の前日までに確実に退院情報を把握することにより、予定入院・緊急入院・本館5階S総合診療科からの転出を円滑にコントロールする。全緊急入院患者を5Sで受け入れることにより、病棟の診療科が混合化することを避ける。「終日、緊急入院患者を受け入れる」体制を継続する。

(2) 医療連携の更なる強化

紹介・逆紹介を推進するため、医療機関への訪問、Web懇親会の開催及び医療連携ネットワークの参加医療機関の拡充を図る。令和4年3月に開院の令和あらかわクリニックとの連携体制を整備・強化する。

(3) 血栓回収脳卒中センターの認定

血栓回収脳卒中センターについて日本脳卒中学会からの認定を受け、基幹病院としての責任を果たすと共に、包括的脳卒中センターの認定に向けた検討を進める。

(4) 病院機能評価一般病院 3 受審

令和 4 年 5 月病院機能評価受審の病院機能評価の結果を踏まえ、病院機能の改善に取り組む。

(5) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う病院機能維持

濃厚接触者の定義の明確化と PCR 検査の徹底、早期の就業復帰に向けた対策及び抗原キットの確保を進める。

2 日本医科大学武蔵小杉病院

大学病院及び川崎南部医療圏の中核病院としての役割・使命を果たし、周産期・小児・救急・周術期の医療を重点化し、「ユニバーサル・機能集約・実用本位」を念頭に置いた施設設計と安全で高品質の医療を提供できる病院を整備する

(1) 救急・総合診療センターを中心とした救急機能の充実

断らない医療の実践を具現化し、川崎市の中核病院として受入病床の確保と働き方改革を両立させた診療体制の構築、後方支援体制の強化及び人員の確保を行い、応需率増加を目指す。

(2) 周産期・小児医療の充実

川崎市周産期医療ネットワーク及び中部小児急病センターの一員として、より一層の周産期・小児医療の充実を図り、産科 28 床、小児科 30 床の専用病床、分娩室 5 室、GCU6 床及び専用外来において、地域に根差した優しい医療を展開する。

(3) 高度医療を提供できる周術期機能の充実

新病院における中央手術室の拡充、口腔科（周術期）の設置と麻酔科管理リカバリー室、栄養科、PSC 等病院全体で構成するチーム医療で手術決定から社会復帰までのサポートを行い、周術期の更なる充実を図る。

(4) 医療安全管理・感染予防管理の徹底

院内における全ての業務に対してインシデント・アクシデント事例を日々分析し、同様の事象が発生しないよう管理の徹底を図る。

3 日本医科大学多摩永山病院

南多摩地域の基幹病院として地域医療に貢献すると共に、地域連携の整備を図る。新病院建設に向けソフト面の充実を図り、移転時に安定した経営を継続できる下地作りを行う

(1) 内科系診療科の再編及び脳神経内科入院病床の開設

内科系診療科の患者の受入れの更なる円滑化と各診療科間の協力体制のもとに救急患者受入体制を整備し、救急応需率の向上に繋げる。脳神経内科入院病床の開設により神経救急疾患や脳卒中を中心とした救急患者の応需を推進する。

(2) ハイケアユニット病棟の整備

複数病棟にハイケアユニット（HCU4床、SU8床）を設置し、脳卒中患者や術後患者を中心とした入院管理の向上を図ることにより、重症患者の受入れを円滑化し、充実した診療体制を構築する。

(3) 各種検診事業への参画

多摩市の各種検診事業（大腸がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がん、胃がん等）に積極的に参画する。

4 日本医科大学千葉北総病院

地域中核病院としての機能を基盤に、ドクターヘリ事業を最大活用した「救命救急、急性期脳卒中、循環器救急等の高度急性期医療」を展開し、がん診療連携拠点病院としての優れた治療実績を蓄積し診療実績を向上させると共に、国際医療の充実を図る

(1) ドクターヘリ事業による高度急性期医療の展開

新たに改修・病床再編されたCCM/ICUを機軸とした急性期医療体制の確立を進め、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑みながら適切に運用する。

(2) がん診療連携拠点病院の指定に伴う診療実績の向上

がん診療連携拠点病院の認定に伴う手術件数及び外来化学療法への向上、緩和ケア診療実績の強化、遺伝子外来・がん周術期サポート外来等の療養環境の更なる充実を図る。

(3) 外国人患者受入れに関する各種認証取得によるブランド資産向上

令和4年度JIH（Japan International Hospitals）の更新に向けた準備を進め、医療渡航受診者や在日外国人患者の受入強化を推進する。

5 日本医科大学腎クリニック

日本医科大学付属病院腎臓内科との連携協力を基本原則とした上で、紹介の実績のある医療機関や新たな医療機関との連携を推進する

(1) 血液透析の診療体制の発信強化

外来透析導入患者に向けて付属病院腎臓内科外来や同診療科で定期的に行われる区民公開講座等の開催を通じて当クリニックの周知を図る。

(2) 日本医科大学付属病院腎臓内科等との連携強化

血液浄化療法や腹膜透析の患者の受入強化に向け、付属病院腎臓内科、消化器・肝臓内科、糖尿病・内分泌代謝内科、皮膚科、血液浄化療法室等と情報共有を行い、連携強化を図る。

6 日本医科大学呼吸ケアクリニック

「都心にある大学病院専門外来」としてサテライトクリニックの機能を果たす

(1) サテライトクリニック機能の運用

大学病院付属診療施設として、より専門性と質の高い医療を提供する体制の運用を図り、付属病院の診療を補完すると共に継続的な検証と必要に応じた見直しを行う。

(2) 外来化学療法の実施

化学療法室の設置による急性期を含めた総合的な呼吸ケアを行うクリニックとして、外来化学療法を実施していることを近隣医療機関に周知する。

7 日本医科大学健診医療センター

大学病院に付属する画像検査センターとして、画像診断における臨床、研究に寄与し、その特性を活かして予防医療の充実のため健康診断、治験事業を行う

(1) PET 検査の強化

付属病院の各診療科との連携による臨床検査の強化と新型コロナウイルス感染症への感染の懸念による健康診断の受診控えに対し、感染症対策の徹底により、コロナ禍でも安心して検診・健診を受診できる環境確保に努める。

8 ワクチン療法研究施設

免疫療法の研究と SSM(丸山ワクチン) 有償治験の基幹施設として、学外施設との連携と SSM についての周知を図る

(1) 学外の医療機関・研究施設との連携

学外の医療機関や研究施設と連携し、免疫療法としての SSM の有用性について理解促進を図る。

9 日本医科大学成田国際空港クリニック

健康診断・人間ドック受診者等への利便性を向上させ、一般診療部門と健診センターの独立により更なる効率化を図る

(1) 実情に即した運営強化

新型コロナウイルス感染症の対応をすると共に、行政等からの要請に対応できる実情に即した実効性のある取組みを推進する。

V. 各センター

1 国際交流センター

外国人留学者の支援・諸手続きの整備及び海外留学の更なる活性化・支援を通して本法人の国際化に貢献する

(1) 外国の大学との学術交流に関する取組み

本学と協定校等との活発な学術交流活動により協定締結を促し、学生交流促進について協議・推進する。

(2) 日本医科大学医学部生の短期留学に関する支援

日本医科大学医学部生の国際交流活動に対して経済的支援を行う国際交流助成制度や海外留学希望者への海外留学奨学金制度を継続して運用する。

(3) 外国人留学者研究会の開催実施

外国人留学者及び留学経験のある日本医科大学及び日本獣医生命科学大学に在籍する学生の外国人留学者研究会（新名称：International Research Conference）を開催し、研究・研修成果の発表等により相互理解及び教職員や両大学の学生と交流する機会を得る場とする。

2 知的財産推進センター

日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の研究支援及び知的財産権の創出支援を行い、本法人における知的財産の活用に向けたマネジメントを強化する

(1) 知的財産に関する取組み

教職員の研究シーズから発明を発掘し、研究統括センターのリサーチアドミニストレーターと連携した活動を行う。本法人の知的財産評価基準に沿った評価及び維持活動を推進する。

(2) 産学官連携の推進

研究統括センター、日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の研究支援部署と連携し、教職員の産学連携活動を支援する。

3 ICT推進センター

法人全体におけるICT最適化と情報ガバナンスの強化を図る

(1) ICT 中長期計画の遂行

2 大学、専門学校における ICT3 か年計画及び日本医科大学附属 4 病院における医療情報システムに関する中期計画を見直し、各所属による計画遂行を支援する。

(2) システム統一による業務効率化

統一した各種システムに対して保守・運用費用を見直し、業務の効率化と費用削減を図る。

4 研究統括センター

治験の実施、特定臨床研究を含む臨床研究の実施基盤整備と振興を図り、研究に関するリスクマネジメント体制を構築する

(1) 治験の推進

治験業務を推進し、効率的な実施を図るため、日本医科大学附属 4 病院の手続き等の統一、手順書、契約書の雛形の見直し、IRB 電磁化及び人材の育成を行う。

(2) 研究リスクマネジメント体制の構築

研究リスクマネジメントとして研究契約を適切に管理すると共に、利益相反マネジメント委員会と連携して、教職員の産学連携活動を適切にマネジメントする。

(3) 法改正に関する体制整備

改正法の情報収集と現行法への学内対応について点検し、法人規程等の制定及び体制整備を行う。

5 しあわせキャリア支援センター

ダイバーシティへの理解を深め、多様な人材を受入れ活用できる組織を構築し、女性研究者のライフイベントとキャリア形成との両立を支援する

(1) ダイバーシティ研究環境整備

ワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境整備を更に推進し、本法人のダイバーシティ推進の取組みについて学内外に情報提供または発信する。また、新たな協力体制の構築が期待される機関との交流の促進を図る。

(2) 女性研究者の研究力向上

女性研究者を対象とした英文校閲費用助成制度や外部資金（科研費）獲得に向けた支援を引き続き推進し、その成果の実施・検証を行う。

(3) 女性の上位職への登用の加速

女性研究者の積極的採用と上位職登用を加速させ、女性活躍推進・ダイバーシティ推進の必要性について職員への意識啓発を行うためのセミナーを開催する。

VI. 法人本部(管理部門)

(1) 法人全体の収支改善に向けた予算編成、財務戦略の策定

収支改善に向けた財務戦略に基づき、原価計算システムにより診療科別収支の分析を行い、医療の質の向上と経営基盤の確立を図る。DPCによる医療収益に対して医療資源投入量が適正であるか、分析ソフトを用いて効果検証する。

(2) 人材の有効活用、有為な人材確保の実施

人事システムの公的資格情報を管理し、職員の保有資格を把握することにより、人材の有効活用を目指す。

(3) 校舎耐震化率 100%への取組み

日本獣生命科学大学第一校地内木造校舎（2・3号棟）の解体工事を着手・完了させ、校舎耐震化率 100%の達成を図る。